



平成 28 年 10 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社ファンドクリエーショングループ
代 表 者 名 代表取締役社長 田島 克洋
(コード番号 3266)
問 合 せ 先 取締役経営企画部長 吉田 隆
(TEL. 03-5212-5212)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 28 年 1 月 14 日付で開示いたしました平成 28 年 11 月期（平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日）の業績予想を下記の通り修正致しましたのでお知らせ致します。

記

1. 平成 28 年 11 月期 連結業績予想の修正等 通期（平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 11 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	百万円 6,237	百万円 601	百万円 550	百万円 477	円 銭 12.73
今回修正予想 (B)	3,321	354	333	301	8.14
増減額 (B-A)	△2,916	△247	△217	△176	
増減率 (%)	△46.8%	△41.1%	△39.5%	△36.9%	
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 11 月期)	5,383	513	459	411	11.03

2. 修正理由

アセットマネジメント事業においては、国内外の投資家層に本年導入された日銀のマイナス金利政策による不動産市況や外国為替市場への影響を見極めたいとの意向が非常に強く、それを受けて当社グループでは前回計画では当期第 4 四半期に見込んでいた国内不動産を対象とする新ファンドの組成を、当期については見送ることといたしました。

また、インベストメントバンク事業においては、太陽光発電ファンド関連は計画どおり順調に進捗いたしました。他方、不動産関連においては、現在の良好な資金調達環境を背景として不動産取引は活性化し市場全体は堅調に推移しておりますが、市場全体が活性化する一方で、一部不動産では売買希望額が適正価格から著しく上方に乖離する物件も散見され、投資に当たっては慎重な選別・精査が必要となってきております。当社グループといたしましては、そうした環境の下、当社グループの投資基準に適合した案件の発掘に鋭意務めておりますが、新規投資のソーシングに際しては今まで以上に精査して行うようにするなど、積極的な収益機会を捉えることに対しより慎重な姿勢で臨んだ結果、当期第 4 四半期に多くを見込んでいた不動産売買が、前回計画比で約 27 億円下回る見込みとなりました。以上の結果、連結売上高は前回予想比 2,916 百万円減少し、3,321 百万円となる見込みです。

利益予想につきましては、上記の売上高減少の影響により、前回計画と比較し連結売上総利益は392百万円減少する見込みですが、効率的な業務推進と各種経費の抑制に努めた結果、連結営業利益は前回予想比247百万円減少し354百万円、連結経常利益は支払利息の減少もあり前回予想比217百万円減少し333百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想比176百万円減少し301百万円となる見込みです。

この度の業績修正に関しては誠に遺憾であります。当社グループといたしましては、今後も投資家の需要及び市場環境・動向等についての詳細な分析を行い、それに基づく新たなファンドの組成、投資案件の精査・選別・取得を進めてまいります。また、太陽光を含む再生可能エネルギー関連ビジネスを引き続き推進していくほか、新たな投資アセットの開発とそのファンド組成を進めていくことにより、事業拡大に尽力してまいります。

注) 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって上記の予想とは異なる結果となる可能性があります。

以 上